

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第7号 令和2年9月23日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

「なぜ、どうして」をいつまでも



校長 堀田 稔

感染症対策の中、ここ数年北海道でも熱中症対策が必要になるほど暑い夏を迎えています。そんな夏が過ぎ、吹く風が秋の訪れを告げているのを感じます。学校は令和2年度の半分、前期が終了しました。新型コロナウイルス感染症が全国的にはまだまだ十分に収まらないところではありますが、苫小牧では少し落ち着きを見せ始めている感があります。

ペーター・フェルディナント・ドラッカーから子育てを考える

・どんな人

ご存知の方も多いかと思いますが簡単に紹介させていただきます。本人は日本にも興味を持ち、日本政府からも表彰されているオーストリア人で、「現代経営学」の発明者です。他人からは「未来のことを考える学者」と言われたこともありましたが、自分では「社会生態学者」を名乗っていました。大学などで教授などを歴任し、著書や名言など多数あります。

・どんなことを言ったか

多くの言葉などを残していますが、その中に『これからの世の中は「知的労働者」の時代を迎えるということを行っています』これはどんな労働者かと簡単に言いますと、自分で仕事を考え、または、やるべきことを自分で見つけ働く人のことだそうです。人に言われて、または、人に頼まれた仕事をする人は21世紀では必要なくなり、AIや機械等が役割を担う、という話です。

・どうやってその力をつけるか

自ら行動を起こしたり発見したりする大人（感知力を磨く）にするには、どのように育てていったらよいか。それは、好奇心をつぶさないということだそうです。日常的になんでも「観察する」ことが大事で、それによって「感じる」ことができ、感じれば頭が回りはじめ「なぜ」と思い「発見」できるようになり「発想の芽」が育つと考えられています。大人の経験がある上での仮想体験や空想体験とは違い、子どもにとっては実際に体験することがとても大切なようです。

・こんなことに気を付けて

今、流行のスマホやゲームに熱中しているような時間が非常にもったいないとも言われています。その時間に外を見て周りを見て「不思議だな。こうなるといいのに。」という気持ちをいくつ持てるかに、その子の将来が、かかっているそうです。スマホやゲームは人間から時間を奪い、身の周りのものや外部から感じる発想や感性を遮断しているとも言われています。

今後の動向は読めませんが、各学年のおたよりや学校だより等でお知らせしています通り、「多くの好奇心」「発想の芽」を直接的な体験を通して伸ばすために、修学旅行や宿泊学習、社会体験学習、体育などの授業公開を工夫して実施します。

保護者、地域の皆様におかれましては、お忙しいこととは思いますが、おたよりをご覧の上、子どもたちの頑張りや成長の様子をご来校いただき、ご覧いただけますと幸いです。開催日時等、不明な点がございましたら、学校へお問い合わせください。

今後とも皆様のご支援ご協力、そしてご参画をどうぞよろしくお願いいたします。